

平成 28 年 10 月 27 日
愛 媛 大 学

法文学部学術シンポジウム

「フィールドワークでみる地域と社会」を開催

愛媛大学法文学部は、シンポジウム「フィールドワークでみる地域と社会」を下記のとおり開催します。

愛媛大学はこれまで、多様な分野においてフィールドワークに基づく研究成果を生み出してきました。各学部の正課科目としても、学外をフィールドとした演習科目が実施されており、毎年多数の学生が参加し地域の諸課題の解決に向けた現地調査を継続しています。地域に根ざした大学としての真価を発揮するために、今後ますますフィールドワークによる活動を増やすことが求められています。

本シンポジウムでは、各分野で活躍されている研究者をお招きして、これまで培ってきた豊富な経験からフィールドワークの魅力を語っていただきます。

つきましては、地域へ広く周知いただきますとともに、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

記

日 時：平成 28 年 11 月 9 日（水）14 時 30 分～16 時 50 分

場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター メディアホール

対 象：学生、教職員、一般の方

定 員：特に設けていません（会場の座席数は 117 席です）

参加費：無料（事前の予約は必要ありません）

駐車場：駐車スペースがありませんので、公共交通機関をご利用ください。

※報道機関の方で、車で取材に来られる場合は、正門警備員室で
会社名等をご記入の上、来客用駐車場を利用してください。

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学法文学部

准教授 兼子 純

TEL：089-927-9352

Mail：kaneko.jun.ju@ehime-u.ac.jp

※送付資料 2 枚（本紙を含む）

フィールドワークで見る

日時・会場

2016年11月9日(水)

14:30~16:50

予約不要・入場自由

愛媛大学・総合情報メディアセンターメディアホール

地域と社会

シンポジウム概要

愛媛大学では、多様な研究分野においてフィールドワークに基づく研究成果が生まれてきました。学部教育でも、学外における演習科目が実施されており、多数の学生がフィールドワークを通じた新しい事実の発見や地域課題の解決に向けた活動に参加しています。愛媛大学が地域社会に根ざした大学としての真価を発揮するために、そして学生自身が自らの感性を研ぎ澄ませるために、今後ますますフィールドワークを通じた研究と教育が重要になってきます。本シンポジウムでは、各分野で活躍されている研究者をお招きして、これまで培ってきた豊富な経験からフィールドワークの魅力をお話させていただきます。

プログラム

1. 開会挨拶・趣旨説明

2. 講演 ①

海外辺境フィールドワークの魅力:焼畑から納豆まで
横山 智(名古屋大学大学院環境学研究科教授)

3. 休憩

4. 講演 ②

法学・政策学とフィールドワーク-人権保障の確立のために
井上英夫(元最高裁ハンセン病「特別法廷」問題有識者委員会座長・金沢大学名誉教授・佛教大学客員教授)

5. 閉会

講演者プロフィール

横山 智 名古屋大学大学院環境学研究科教授

1966年北海道生まれ。高専卒業後、オリンパス光学工業に入社。退職後、1992~94年まで青年海外協力隊員としてラオスで活動。熊本大学文学部助教授等を経て現職。専門分野は地理学。著書に『納豆の起源』がある。横山氏HP → <http://www.geog.lit.nagoya-u.ac.jp/yokoyama/>

井上英夫 元最高裁ハンセン病「特別法廷」問題有識者委員会座長・金沢大学名誉教授・佛教大学客員教授

1947年埼玉県生まれ。日本社会保障法学会代表理事、厚労省ハンセン病問題検討会委員長、ハンセン病を理由とする開廷場所指定の調査に関する有識者委員会座長等を歴任する。全国老人福祉問題研究会会長、生存権裁判支援全国連絡会会長、日本高齢期運動サポートセンター理事長。専門は社会保障法、福祉政策論。著書に『患者の言い分と健康権』『住み続ける権利』などがある。